

半田市立図書館運営基本計画概要版



I 計画の概要

策定趣旨・目的

近年、ライフスタイルや個人の価値観が多様化し、さらに市民が直面する課題も複雑化・多様化していることから、課題解決のための情報収集や学習機会を提供する必要性が高まっています。このような社会や市民ニーズの多様化に対応する図書館として、従来の資料の提供のみにとらわれないサービス提供が求められています。

また、子どもの読書活動は、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものであり、社会全体で積極的に読書環境の整備を推進していくことは極めて重要となっています。

そのため、本市でこれまで推進してきた「半田市子ども読書活動推進計画」の計画期間が終了することを契機に、子どもの読書活動を含めた図書館事業・サービスのさらなる充実と向上を図るため、図書館の基本的な運営方針を定める「半田市立図書館運営基本計画」を策定しました。

計画期間

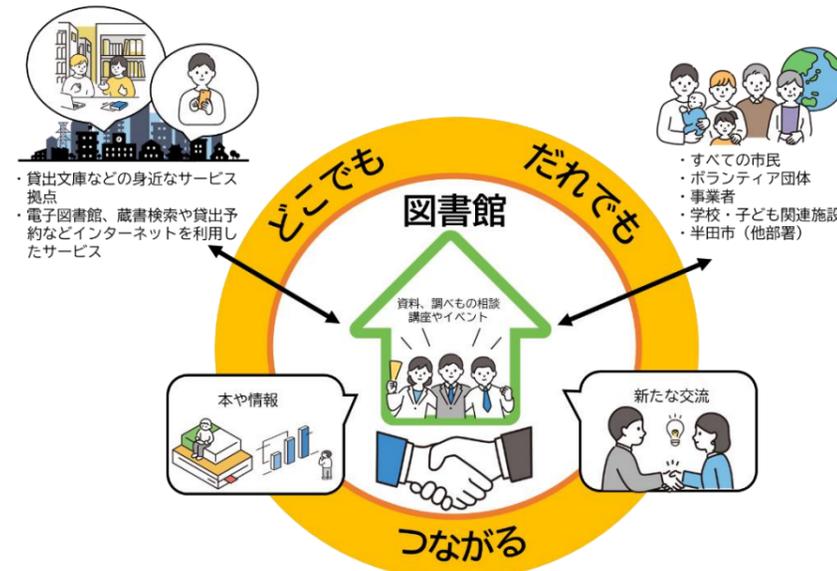
令和8年度から令和17年度までの10年間とし、中間年度に見直しを行います。

II 基本理念

本計画では、これまでの課題を踏まえ、誰もが利用しやすく、また利用したくなる図書館を市民と共に創り上げることを目指します。本と人、人と人がつながることで、新たな学びや発想、交流や活動が生まれ、市民の心豊かな暮らしに貢献でき、よりよいまちづくりにつなげる場としていきます。

そこで、半田市立図書館の基本理念を次のとおり掲げ、市民から「あって良かった」と思われる図書館を実現するために5つの基本方針を定めます。

どこでも だれでも つながる図書館



III 基本方針

1. 地域の情報拠点としての図書館

地域の「知の拠点」として、進化する情報化社会に対応しながら、市民が求める資料や情報を収集・提供します。また、「市民の知りたい・困った」に応える調べもの相談（レファレンスサービス）を推進し、暮らしや課題解決に役立つ様々な知識や情報につなげる図書館を目指します。

2. 本と人をつなぐ図書館

本と人をつなげる取組を実施し、市民の読書活動を推進します。とりわけ、これからの社会を担っていく子どもたちが、生涯にわたる読書習慣の基礎を身につけられるよう、年齢・発達に応じた読書活動を支援します。

3. 誰もが利用しやすい図書館

年齢や障がいの有無、国籍に関係なく、すべての市民が必要な知識や情報につながるができるよう、図書館の利用を支援します。また、誰もが気軽に立ち寄れる市民の居場所としての環境整備を進めるとともに、市域全体で市民が図書館サービスとつながり、身近に利用できる体制づくりを目指します。

4. 人がつながり共に創る図書館

市民の声と力を図書館運営に活かし、多様なニーズを掘り起こして、よりよい図書館サービスの提供につなげます。市民やボランティア等と共に活動することで、新たなつながりや交流が生まれる図書館を目指します。

5. 学び成長し続ける図書館

市民の多様なニーズに応え、信頼される図書館サービスを提供するために、図書館員が常に新しい知識や情報、地域の動向とつながりながら、専門的な知識と技能の向上を図ります。また、長期的な視点から持続可能な運営体制の確立を目指します。

IV 施策体系

基本理念

誰でもだれでもつながる図書館

基本方針

1. 地域の情報拠点としての図書館

2. 本と人をつなぐ図書館

3. 誰もが利用しやすい図書館

4. 人がつながり共に創る図書館

5. 学び成長し続ける図書館

基本施策

- 市民の知識を支える資料の収集と提供
- 地域資料の収集・保存と提供
- 行政組織との連携
- 調べもの相談の充実
- 講座開催等による学びの機会の提供

- ニーズに基づく読書活動の推進
- 子どもが本に親しむ機会の提供
- 親子の読書活動支援
- 学校との連携強化
- 子ども関連施設への読書支援の推進

- 身近な図書館サービスの提供
- 障がいのある方や外国にルーツのある方、高齢者等への利用支援
- 市民が気軽に立ち寄れる環境の整備
- 図書館におけるDX化の推進
- 図書館サービスの利用促進

- 図書館サービスの理解促進
- 図書館運営を支える市民との連携
- ボランティアの育成・支援
- 市民の声を反映する図書館運営

- 図書館員の専門性の向上
- 図書館員のファシリテーター能力の育成
- 図書館サービス向上のための効率的な運営方法の検討